

付帯調査（自由意見）

（令和5年12月調査）

景況調査票の自由意見欄に222企業から貴重なご意見をいただきました。ご多用中にもかかわらずご記入をいただき感謝申し上げます。

図表1 最近の状況や関心事

分類項目	回答数※
1. 経済・景気動向	79
2. 業界の動向	54
3. 顧客・得意先	41
4. 為替	27
5. 金融・資金繰り	36
6. 売上・収益	76
7. 物価変動	50
8. 消費税	30
9. 人材の確保・育成	46
10. その他	13

※複数回答

特徴的なご意見を掲載いたします。なお、掲載にあたり若干の加筆・修正を加えています。

1. 経済・景気動向について

- ぴたりと止まった状況。リーマンショック時より、はるかに悪い。
(鉄鋼・非鉄金属製造業)
- 半導体、自動車産業等製造業を牽引する産業の回復動向が気になる。回復時期とそのボリュームによっては経済全体の動向に影響する。
(金属加工機械製造業)
- 様々な要因による物価高に加え、所得も上がらず、消費者の反応がかなり鈍いと感じる。
(婦人・子供服卸売業)
- 物価高の影響が続き、年金生活者は特に買い控えている様子。また、季節感がず

れていることもあり、秋物の動きが悪く、いきなり冬物という動きになっている。
(家庭用品・他什器小売業)

- 新型コロナウイルス感染症以降非常に厳しい営業となっている。このような状況ではこの先が心配。
(スポーツ用品小売業)
- 景気は上向きと言われているが、物価の上昇が激しくて好況感は全くない。
(広告・ディスプレイ業)

2. 業界の動向について

- 中小企業の景気が良くない。大手からの注文が少なくなっている。業界そのものも値上がりの影響で物が売れないためなのか、縮小傾向に向かっているようにみえる。
(洋食器・刃物・金物製造業)
- 中国経済の悪化で、油圧業界としては下降状況。来年はどうなるか心配している。
(はん用機械製造業)
- 配送について来年から大きく変化する見込み。今までは注文してから翌日に届くのが当然だったが、中1日おいての配達になるというところがあり、他も追随しそう。
(文房具・事務用品卸売業)
- 山林労働者の減少により山からの産物が出てこないで困っている。必然的に輸入に頼らざるを得なくなり、商品単価が上昇している。(木材・他建築材料卸売業)
- 業界全体としては、薄日がさしている状況。当社に限れば、年度末からGWにかけて大型受注があり、年商分くらいの納入がある。(ゴム・プラスチック卸売業)
- クリーニング業は廃業、倒産が増えている。資材が値上がりし、価格に転嫁しきれず、新型コロナウイルス感染症下での借り入れの返済に利息も付き大変である。新規のお客様があっても、物価高の影響もあり1人あたりの単価が伸びていかない。
(普通洗濯業)

3. 顧客・得意先について

- 客先は産業機械向けが減速、低調。半導体関連設備のみ引合いが強く好調。
(鉄鋼・非鉄金属製造業)
- 海外での原材料・工賃の上昇や円安により仕入価格が大幅に上昇し輸入経費が増加した。客先の購買力も弱くなり、積極的に日本国内の賃金増加、景気の挺入れ、為替介入等をやらしてもらわないと新型コロナウイルス感染症以前の状態に戻せないと思われる。
(靴・履物卸売業)
- 物価上昇その他の要因か、個人顧客の財布のヒモが固くなっているのを強く感じる。
(その他専門サービス業)

4. 為替について

- 円安の高止まりによりコストの上昇が止まらない。(革製履物・革製品製造業)
- 早く円安が解消・為替が安定し、130～135円に戻って欲しい。(がん具・事務用品製造業)
- 世界経済の状況により営業外収益の変動が大きく、為替が円安に推移することにより仕入コストが上がり、販売価格に転嫁できず利益を圧迫している。(かばん・袋物卸売業)
- ユーロ高が非常に大きな影響を持っている。政府が円安を何とかしないと我々のようなインポート商品を扱う事業者にとっては低迷しかない。(雑貨・身の回り品小売業)

5. 金融・資金繰りについて

- 新型コロナウイルス感染症下で借り入れた無利子分と、有利子分の返済が厳しい。材料費も上がり、水道光熱費も上がり、賃金を上げたいが、無理な状態。消費税のインボイスの事務処理も負担となっている。(金型製造業)
- 変動金利で借入を行っているため、今後の金利動向が大変気になる。(事務用機器他賃貸業)

6. 売上・収益について

- 原材料価格、電気料金等の急激な上昇で利益が減少、値上げを目指す。(理化学・光学機器製造業)
- 主な得意先(飲食店や給食業者)の提供価格によっては適正な値上げもできず、利益を圧迫している状態。(食肉卸売業)
- 現在はまだ会社の体力があるが、お菓子が売れない状況で原材料・電気ガスの値上げ、急激な人件費の上昇に零細企業はついていけない。このまま赤字が続くようならば、損失が少ないうちに廃業も考えなければならない。(菓子・パン類卸売業)
- 売上は前年同月を確保あるいは上回ることができても、上昇し続ける人件費と大きく変動する光熱費の影響で、安定収益の確保が困難な状況のため、先の見通しを立てにくい環境にある。(各種食料品小売業)
- 原材料の値上がりで売上高は増加しているが、収益は低下している。価格転嫁が十分にできていないのが現状。(鮮魚小売業)
- 平年よりも気温が高かったため、人の出が良く売上も良かった。この先、気温が下がると売上も同じく下がると思うが、年末年始に向けてどうなるか。(菓子・パン小売業)

- 商品納入価格が上がり、値上がり分を店頭価格に転嫁しきれず、利益を確保することが大変な状況。来年は少しでも落ち着いてもらいたい。(医薬品小売業)
- 新型コロナウイルス感染症が落ち着き、仕事量が順調に伸びてきたが、伸び率が激しく自社で対応しきれないものばかり。結局業者を使うことで出銭が多くなり、利益に満たず。(機械修理業)
- インバウンド効果もあり取引先からの受注は増えているが、広告宣伝費など経費も増加しているため、売上と収益のバランスをとることが課題。(労働者派遣業)

7. 物価変動について

- 地金相場高騰により、収益を圧迫している。(貴金属・宝石製造業)
- 食材の仕入価格が高くなって困っている。(料理品小売業)
- 昨今の物価高による集客、客単価への影響を懸念。(花・植木小売業)
- 燃料価格や資材の高騰に憂慮している。(道路貨物運送業)
- 製造業などと違い、原材料費のコスト高騰が値上げの理由にならないサービス業は、なかなか値上げをすることができない。(その他専門サービス業)
- 原材料費高騰、人手不足に加えて人件費高騰により経営状況悪化の可能性あり。(廃棄物処理業)
- 最近の物価高にあわせて社員の給与を上げているが、クライアントに請求できる人件費は変わらず、苦慮している。(産業用機器賃貸業)

8. 消費税について

- インボイス制度が開始し事務負担が増えている。(精密・医療用機器卸売業)
- インボイス制度導入により、業務多忙及び費用が増加しており、業務に支障をきたしている。(駐車場業)
- インボイスのチェックで、経理事務の残業増加。人員不足につき、厳しい。(建物サービス業)

9. 人材の確保・育成について

- 人材確保が難しい。特に若年層の採用ができない。(金属素形材製品製造業)
- 技術保持者の人材確保が難しい。(医療用機器製造業)
- インバウンドが回復してお菓子の需要も増えてきたが、人手が足らず、生産が注文に追いつかない。(パン・菓子製造業)
- 優秀な人材が集まらない、育たない。採用の方法を検討中。(食肉卸売業)
- 人材の確保が厳しい月が続いている。(各種食料品小売業)

- 人材不足が続いている。採用に力を入れているが、給与水準を上げないと採用が難しくなってきたと感じる。一方、大幅に賃金を上げると収益を圧迫してしまうため、その塩梅に悩んでいる。(ソフトウェア業)
- 受注可能な役務が増えつつあるものの、人材の確保が追いついていけないため、受注機会を逃がす恐れがある。(情報処理サービス業)
- 業況は改善傾向にあり、売上も上向いてはいるが、人材の確保が進まない。2024年問題を目前にし、苦慮している。(建築設計業)
- 売上・収益を生み出すためには、人材の計画的な確保が望ましいが、人が集まらない状況が続いている。会社の魅力を高めながら、今ある人材をいかに活かしていくかが課題である。(その他専門サービス業)
- 宿泊業ではベトナムなどの外国人労働者に清掃業務を担ってもらい、どうにか運営できている。特定技能制度などを運用しやすくしてほしい。(宿泊業)

10. その他

- 新型コロナウイルス感染症後、需要商品が変化している。価格は後付けの高級・高品質タイプと価格重視のタイプに二分化されつつあり、その両方の情報と知識が必要となっている。(家具・建具卸売業)
- テレワークの習慣が定着し、事務用の空室が埋まらない。(不動産取引業)
- 近い将来、労働力不足をどう補うのか心配。単に外国人労働者を雇えば良いという問題ではなく、言葉の壁や食住環境等異文化の方々を受け入れる体制が整っていないため、仕事があったとしても消化できなくなっているのが心配。(不動産賃貸・管理業)